

[GRAPEVINE]

サッポロビネヤーズUSAにおけるブドウ園の経営

サッポロワイン(株) 野田 雅章

ワシントン州はアメリカ西海岸、カリフォルニア州・オレゴン州の北部に位置し、年間数万KLのワインを生産するアメリカ有数のワイン産地です。アメリカのワインといえば、まずカリフォルニアワインが挙げられますが、国内ではワシントンワインの認知度は年々高まってきており、最も注目されている産地です。ワシントン州は別名Ever Green Stateと呼ばれますが、近年はワイン用のブドウ栽培が活発化し、秋季の景観は緑からChardonnayの黄金色やCabernet Sauvignonの濃いルビーレッドに変わってきたとさえ言われるようになりました。特にワシントン州中部～南部は気候的に非常に恵まれている地区が多く、カリフォルニア州やヨーロッパの銘醸地と比べても良好とさえいえます。ブドウは高糖度・低pHであり、そのワインには十分な品種特性が現われるとともに、長期の熟成にも耐えうる特徴を持っています。

ワシントン州内では次々と栽培適地が開拓され、新しい産地が形成されつつありますが、現在のところ、主要なAppellationとしては4つが認定されています。すなわち、北西部のシアトル周辺のPuget Sound地区、中央部から南東部に位置する広大なColumbia Valley、Columbia Valleyに隣接するYakima ValleyとWalla Walla Valleyです。

当社では1990年にサッポロビネヤーズUSAを設立し、Yakima Valleyでブドウ栽培からのワイン製造に取り組んでいます。今回は、当地における特にブドウ栽培に関する取り組みを紹介させていただきます。

サッポロビネヤーズで栽培しているのはCabernet Sauvignon、Merlot、Chardonnay、White Riesling、Gewurztraminerの4品種です。この地区の年間降水量は約170mm、4～9月では60mmであり、成熟期の気温の平均日較差は約20℃と大きく、非常にブドウ栽培に恵まれた気候

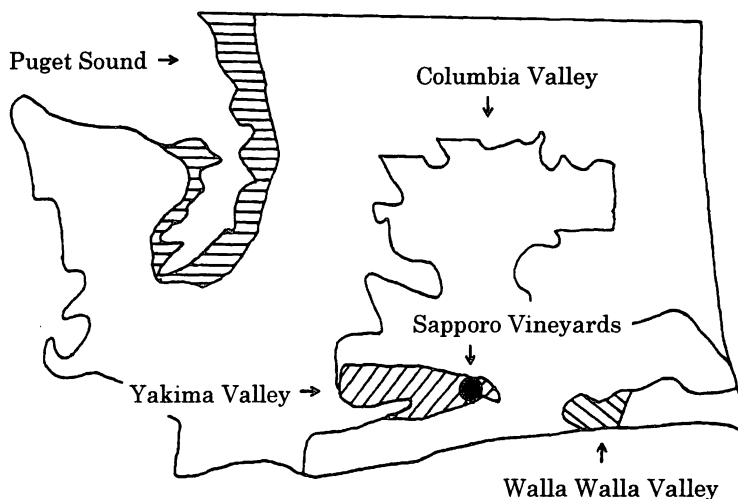
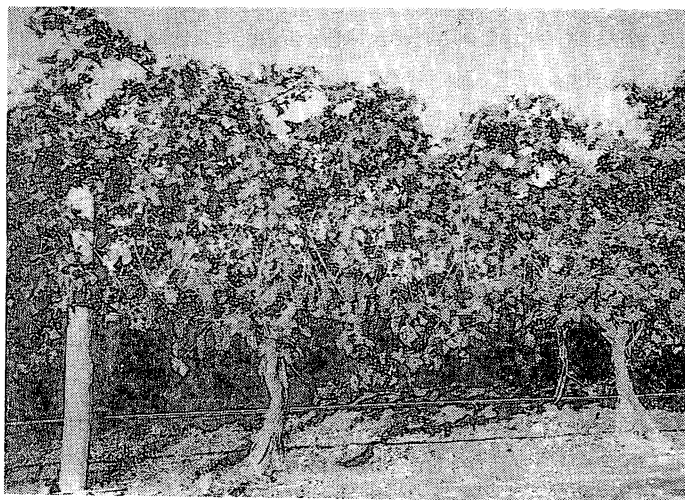
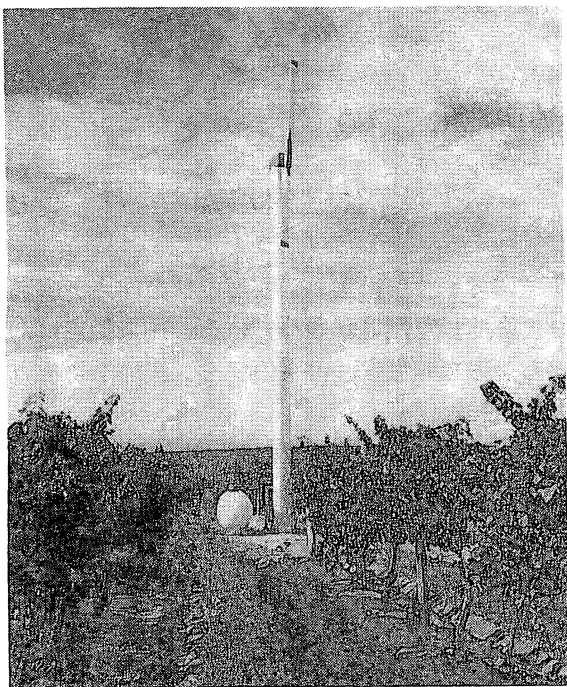


図 ワシントン州内の主要 Appellation とサッポロビネヤーズ所在

です。唯一の欠点は冬季に凍害が起こりうることであり、1991年に当地域は実際に大きな被害を受け、サッポロビネヤーズの収穫量も前年の1/3以下となってしまいました。この反省に立ち、その後、幾つかの凍害対策を取っていきました。

対策の1番目はブドウ樹体の生育コントロールにより、樹体貯蔵養分の蓄積不足を解消することでした。従来は、灌水をすべてrill方式（溝灌水）で行なっていましたが、これをdrip方式とsprinkler方式に変更





していきました。これにより、土壌水分の十分な調整が可能となり、新梢が過剰に伸長することが少なくなりました。2番目は収穫後に十分な灌水を実施することであり、冬季に土中に十分な水分があることにより、氷膜による保護、比熱の大きさによる保温効果が期待されます。3番目はウインドマシンの設置であり、園内の空気を攪拌することにより、冷気の停滞を防ぎ、霜害とともに凍害対策にも効果が期待されます。1996年には1991年に匹敵する異常低温にみまわれ、最低気温 -20°C 以下の日が5日間続きました。近隣のブドウ園が大きな被害を受けていた中、サッポロビネヤーズの被害は少なく、収穫量は前年以上となり、凍害対策については大きな自信を持ちました。

このような海外拠点を持ち、これを継続的に維持していくためには、経営的な健全性も必要となります。取り組み開始当初は経営的に困難な点も多く、栽培管理面も含めて様々な改善により、コストダウン及び安定した収量を確保していくことが必要でした。上記の凍害対策も改善例の一つですが、栽植面積拡大の際には新しい部材の採用により、新植にともなう費用を大きく低減できました。その部材の一つはブドウ樹固定・誘引用の金属製の支柱であり、従来使用していた木製支柱に比べて耐久性が2~3倍となった他、機械収穫機による収穫効率も大きく向上しました。もう一つはgrow tubeと呼ばれるビニール製の円筒型の苗木被覆資材であり、加温及び防風効果により苗木の生育が促進され、成園化までの

期間が短縮されるとともに、ブドウ樹の周囲にも除草剤の使用が可能となり、園内の除草作業効率が大きく向上しました。これらを含め様々な工夫により、黒字が維持されるようになり、経営も成り立っております。

サッポロビネヤーズUSAを設立した目的の一つは、スーパープレミアムと呼ぶことのできる高品質なワインの製造にチャレンジすることです。このため、醸造面での技術改良と並行して、ブドウ樹の栽培管理方法の改良によるワイン品質の向上に関する取り組みを継続してきました。まず、区画ごとにブドウ園の土壌成分やブドウ樹の生育・果実品質を比較し、プレミアムワインの対象とする区画を選定しました。その後、区画ごとに定期的に土壌の化学組成及び葉柄分析を行ない、これに基づいて毎年の施肥量を調整することとしました。灌水はすべてdrip方式に切り替え、土壌水分測定器を設置し、この測定値に基づいて灌水の頻度及び量を調節しています。また、ブドウの成熟程度や着果量・仕立て等の栽培管理方法ごとに仕込み試験を行ない、品質ポテンシャルを探りつつ、ワインの品質向上に努めております。これらの調査・研究は、まだその途上であり、今後も努力を重ねなければなりません。プレミアムワインとして自信を持って飲んで頂けるワインを造れる日も遠くないと考えております。

当初は不安な面もありましたが、取り組みを継続するにともない、私どものワシントンワインの品質に対する信頼は高まってきております。当社では今後も精力的に活動を行ない、ワシントンさらにはアメリカを代表するようなワインを製造し、ワシントンワインをもっと広く世界に紹介していきたいと考えております。

